

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月 4日現在

機関番号：37125

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22592590

研究課題名（和文） 離島在住高齢者のQOL向上へのインフォーマルサポートの関連に関する研究

研究課題名（英文） Relevance of Informal Support and Other Services to the Quality of Life of the Elderly Population on a Remote Island

研究代表者

濱野 香苗（HAMANO KANAE）

聖マリア学院大学・看護学部・教授

研究者番号：60274586

研究成果の概要（和文）：

2010年（高齢者94名）WHO/QOL得点とADL得点、介護認定、サービス受給、診療所利用、ボランティア仲間と交流、行事参加、新聞購読、趣味を楽しむ、物事へ積極的取組が関連していた。

2011年（高齢者87名）生活満足度高群は組織に参加し、心の支えや野菜・魚の授受があり、低群はサポート受領のみであった。野菜等の授受は自然の事であった。

2012年（第2号被保険者68名）サポートは冠婚葬祭や野菜等の授受、声かけ等であった。A島の高齢者のQOL向上にインフォーマルサポートは必要不可欠で、今後も継続が大切である。

研究成果の概要（英文）：

In 2010, 94 elderly subjects were studied for which WHO/QOL scores related to assisted daily living (ADL) were assigned based on whether or not they were certified as needing long-term care and/or receiving nursing care insurance services. Scores were also based on subjects' frequencies of engaging in the following activities: use of the local medical office, meeting volunteers, participating in events, reading newspapers, and enjoying hobbies. Their attitudes, either positive or negative, toward various things were also measured.

In 2011, in a study of 87 elderly subjects, the group that showed a high life satisfaction score either belonged to the local elderly social club, received psychological support, or either gave out or received fish and vegetables. The group that scored low for life satisfaction only received informal support. On Island A, giving and receiving fish and vegetables was a natural, daily activity among the elderly.

In 2012, 68 subjects who were receiving level 2 nursing care insurance were receiving informal support during ceremonial occasions, gave or received fish and vegetables, and called on neighbors. On Island A, informal support appears necessary for improving the QOL of elderly people, and it is therefore important to continue this kind of support.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：高齢者、離島、QOL、インフォームドコンセント

## 1. 研究開始当初の背景

老後の最大の不安要因となっている介護問題に対して、社会全体で介護を支える新たな仕組みとして導入された介護保険制度は、今年で10年が経過しようとしている。その間、平成15年には介護報酬改正を含めた見直しが行われ、平成18年からは予防重視型の介護保険制度がスタートした。在宅重視と自立支援の観点や利用者のニーズに対応したきめ細かく満足度の高いサービスの提供が強調されている。

平成17年度～平成18年度の科学研究費補助金基盤研究(C)を受けて「離島在住高齢者のサポートシステムへの介護保険の影響」をA島で調査した。介護保険が導入され、A島に高齢者センターが設立され、フォーマルサービスとして入浴を含むデイサービスや訪問介護が開始された。A島の高齢者のサポートシステムが介護保険導入によって大幅に変わることはなかったが、船が唯一の交通手段である離島では、限定されたサービスしか受けることができず、介護保険サービスに格差があることが明らかになった。また、A島の高齢者はほぼ全員島に住み続けたいと希望しており、住み慣れた地域でQOLを維持・向上しながら生活する為には、介護保険のようなフォーマルサポートばかりでなく、地域に存在する観音講のような組織や地域住民によるインフォーマルサポートが重要であると考える。

高齢者のQOLに関連する要因は多く研究されており、原らは社会的ネットワークや地域活動等が主観的健康やQOLに関連している可能性を示唆している。またQOLとソーシャルサポートとの関連では、讃井らは高齢者の生きがい感に繋がっているものは人との繋がりでであると述べている。しかし、離島の高齢者のQOLにインフォーマルサポートがどのように関連しているのかを明らかにした先行研究は見られず、特にA島に維持継続されている観音講のような組織がインフォーマルサポートとして高齢者のQOLにどのような関連があるのかを明らかにした研究は皆無であった。そこで、離島在住高齢者のQOL向上へのインフォーマルサポートの影響を明らかにすることにした。

## 2. 研究の目的

フォーマルサポートに格差がある離島や

限界集落に在住する高齢者の保健医療福祉サービス充実へのインフォーマルサポートの有効活用の示唆を得ることをねらいとして、研究目的は、以下の3点とする。

(1)平成22年度は、A島在住の65歳以上の高齢者のQOLとインフォーマルサポートの状況を質問紙調査で明らかにする。

(2)平成23年度は、QOL高群とQOL低群から各10名を選び、面接調査を行い、高齢者のQOLにどのようなインフォーマルサポートが関連しているのか明らかにする。

(3)平成24年度は、A島を維持している介護保険第2号被保険者を対象に面接調査を行い、高齢者のQOLを維持・向上させるためのインフォーマルサポートの活用方法を検討する。

## 3. 研究の方法

### (1)平成22年度

対象:A島在住65歳以上の男女の高齢者80名

研究方法:構成的質問紙を用いた面接調査

調査内容:性別、年齢、家族構成、教育歴、宗教、WHO/QOL尺度、老研式活動能力指数、対人関係、フォーマルサポートの状況(介護保険の認定とサービス利用の有無、診療所、駐在所、郵便局、漁協等からどのようなサポートを受けているのか)、インフォーマルサポートの状況(老人会、班、信徒会、観音講、婦人会等への参加状況とどのようなサポートを受けているのか、サポートを提供しているのか、民生委員、区長、家族、隣近所、親戚、友人、昔の仲間等からどのようなサポートを受けているのか、サポートを提供しているのか)

研究計画:4月～5月 質問紙の作成

6月～7月 調査依頼と調査時期の調整

本学倫理委員会の研究の承認を得る。

8月～11月 面接調査の実施

島内の移動手段を確保し、各家庭を訪問し、調査の目的、方法、プライバシーへの配慮等を説明し、同意書に署名をもらい、質問紙を用いて面接調査を行う。

12月～1月 データの整理および分析

2月～3月 研究のまとめ、論文作成

### (2)平成23年度

対象:QOL高群10名、QOL低群10名

研究方法:半構成的質問紙およびインタビューガイドを用いた面接調査

調査内容:老人会、班、信徒会、観音講、婦

人会等への参加状況、各組織から心理的サポートおよび手段的サポートとしてどのようなサポートを受けているのか、自分自身はどのようなサポートを提供しているのか、民生委員、区長、家族、隣近所、親戚、友人、昔の仲間等から心理的サポートおよび手段的サポートとしてどのようなサポートを受けているのか、自分自身はどのようなサポートを提供しているのか

研究計画:

4月～5月 質問紙およびインタビューガイドの作成

6月～7月 調査依頼と調査時期の調整  
地区代表者に連絡をとり、調査時期を調整する。

8月～10月 面接調査の実施  
島内の移動手段を確保し、各家庭を訪問し、調査の目的、方法、プライバシーへの配慮等を説明し、同意書に署名をもらい、質問紙とインタビューガイドを用いて面接調査を行う。

11月～1月 データの整理および分析

2月～3月 研究のまとめ、論文作成

(3)平成24年度

対象:介護保険第2号被保険者10名

研究方法:半構成的質問紙を用いた面接調査

調査内容:「高齢者のQOL維持・向上へのインフォーマルサポートの活用法」についてどのように考えているか、

研究計画:

4月～5月 質問紙の作成、

6月～7月 調査依頼と調査時期の調整  
地区代表者に連絡をとり、調査時期を調整する。

8月～10月 面接調査の実施  
調査の目的、方法、プライバシーへの配慮等を説明して同意書に署名をもらい、半構成的質問紙を用いて面接調査を行う。

11月～1月 データの整理および分析

2月～3月 研究のまとめ、論文作成

#### 4. 研究成果

(1)平成21年12月～平成22年5月、構成的質問紙を用いた面接調査を行った。分析は、 $\chi^2$ 検定および重回帰分析を用いた。A島在住65歳以上のコミュニケーションが取れる高齢者94名(男性30名、女性64名)から協力が得られた。QOL得点は5点満点で1.62点～4.35点、平均3.29±0.54点であった。QOL得点の高い群10名と低い群10名を比較したところ、有意差があった項目は、ADL得点、介護認定の有無、

介護保険サービス受給の有無、診療所の利用頻度、ボランティア仲間との交流頻度、行事への参加頻度、新聞を読む程度、趣味を楽しむ程度、物事への積極的な取り組みの程度であった。重回帰分析では有意な項目は見られなかった。

(2)平成23年8月～平成24年3月、半構成的質問紙およびインタビューガイドを用いた面接調査を行った。A島在住の65歳以上の高齢者87名(男性26名、女性61名)から協力を得た。平均年齢は77.1歳であった。生活満足度は9点満点で0～8点、平均2.72点であった。生活満足度の高得点群(以下高群)12名、低得点群(以下低群)10名から協力を得た。高群は老人会、ボランティア活動、観音講、信徒会、琴やカラオケグループ、高齢者の集いなどいずれかの組織に参加しており、参加することは楽しみや生きがいでなく仲間同士の悩み事の相談の機会になっていた。低群も2名を除いて同様の組織に参加していたが、相談相手・楽しみのプラス面だけでなく、人間関係に気を使うなどのマイナス面の意見も聞かれた。民生委員や区長、家族・親戚・隣近所・友人などからのサポートの授受は、高群では相談などの心の支えの授受、野菜・魚・おかずなど物質的な授受であった。低群では相談相手や食材をもらうサポートを受けているが、自分はサポート役割を取れない人が半数以上であった。A島のインフォーマルサポートの特徴は野菜・魚・おかずなどの授受が日常的に当たり前として自然に行われているところであり、その維持を望む発言が多く聞かれた。

(3)平成24年7月～11月、A島の介護保険第2号被保険者を対象に半構成的質問紙を用いた面接調査を行った。43歳から64歳の介護保険第2号被保険者68名(男性29名、女性39名)から協力を得た。平均年齢は55.6歳であった。家族構成は親と同居54.4%、配偶者や子どもと同居41.2%、一人暮らし4.4%であった。インフォーマルサポートの状況は、冠婚葬祭に関して手助けを得ているのは、親戚、近所、班等が88.2%、身内や兄弟5.9%、友人や仕事仲間4.4%、教会1.5%であった。日常生活においては野菜のやり取り70.6%、魚のやり取り47.1%、お裾分け7.4%、おかずを貰う4.4%等であった。声かけしたり心配するのは当たり前で特別なことではない39.7%、インフォーマルサポートは島では一番であり、そうしないと島では生活できない14.7%、血縁を迎ればどこかに繋がりがあ、他人でも親戚のように接する10.3%、干渉してほしく無い人もいるので負担にならない

ように関わる 2.9%等の意見があった。A 島の高齢者の QOL の維持・向上のためには、今のインフォーマルサポートの状況を変わず続けることが大切であると考えている人が 11.8%みられた。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

- ① 濱野香苗、堀内啓子：離島在住高齢者の QOL へのインフォーマルサポートの関連、日本看護研究学会雑誌、査読有、35、2012、45-55.

〔学会発表〕(計 2 件)

- ① 濱野香苗：離島在住高齢者へのインフォーマルサポートの影響、第 61 回日本農村医学会学術総会、2012. 11. 1、島根県民会館（島根県）.
- ② Kanae Hamano, Keiko Horiuchi: Related Factors Concerning The Quality of Life of the Elderly Population on A Remote Island, 18<sup>th</sup> International Congress of Rural Health and Medicine, 2012. 12. 11, Kala Academy (India),

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

濱野 香苗 (HAMANO KANAE)

聖マリア学院大学・看護学部・教授

研究者番号：60274586

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：